

基本理念	基本目標	分野	福祉課題	福祉課題の実情	具体的な取り組み（条件づくり）	校区社協としての取組
人生の各ステージにおける地域住民の自立への営みに積極的にいかかわるとともに、支援が必要な方へ手を差し伸べるまちづくり	高齢者が自立に必要な方への取組に積極的に連携し、支	高齢者	高齢者の自立支援及び要支援者に対する関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の絶対数が増加し、人口に占める割合も増加している。 ○長寿で健康な方の絶対数は増加している。 ○認知症高齢者数は横ばいであるが、家族の負担は重い。 ○自治会・民生委員にとって独居老人等との接触は、年々困難になってきている。 ○孤立している独居老人宅での火災が発生など、近隣にとって、決して他人事ではすまされない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○民生委員との連携 ○いきいきサロン・百歳体操等の地域活動への参加の促進 ○地域支え合い型通所サービスの運営支援 ○地域ケア計画の策定 ○高齢者見守り事業の拡充 ○生活支援体制の整備 ○認知症施策の推進 ○保護司会活動の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○民生委員との緊密な連携・資金援助 ○いきいきサロン・百歳体操の実施 ○関係機関（市、市社協、ささえりあ）との連携・情報の共有 ○認知症サポーター養成講座への参加 ○災害時ボランティアの募集・登録・総会・研修会等を通じた保護司活動の理解促進
	のて子故郷もでにありむを続けるとの、満足度、育み、思い、出、子どもたちやその周りの人々	子ども・子育て	子どもの見守りと地域社会の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「子どもまんなか2025～2029」：「子どもは地域で育む」 ○共働き世帯割合の増加により、放課後の居場所がない子ども達が増えている。 ○子育て中の母親同士のつながりの場がSNS以外にはほとんどない。 ○スポーツクラブ、塾以外の子どもの年齢層をまたぐ付き合いが減っている。 ○スマートフォン（SNS）を通じた匿名性が高く犯罪にも直結する事柄に子どもたちがさらされている。 ○違法薬物（特に大麻）等が若年層（中学生）へも蔓延してきている。 ○闇バイトへの関与など非行の質が変化し、非行少年の見た姿もいわゆる「不良」から「普通」へと変化が見られる。 ○ヤングケアラーが社会問題化している（世話をしている相手は兄弟が多い）。 	<ul style="list-style-type: none"> ○福祉教育の充実 ○子育てサークル等の地域活動への参加の促進 ○まちづくり委員会・PTA・青少協・公民館との協調 	<ul style="list-style-type: none"> ○福祉活動に関する研修会（実績：里親説明会、子ども食堂への取組）の実施 ○子育てサークル（りんごちゃん）の実施 ○登校時の見守り活動 ○放課後公民館における子どもの見守り活動の支援 ○駄菓子屋公民館活動の支援 ○地域の野鳥観察会・お月見の会の支援 ○地域行事「校区成人式」「どんどや」等の支援 ○親子交流（面会交流）の支援
	に、校区社協の担い手となる人材を育成し、組織を整備するとともに	その他	校区社協の体制整備と人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ○校区社協の役割の明確化が重要。 ○校区社協の活動を通じた地域住民へのアピールが必要。 ○事業の担い手となる人材、後継者の育成が急務。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市社協との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○校区社協役員構成の明確化（構成団体の幹部により運営） ○校区内の各教育機関・各機関との連携強化（会議等の開催） ○校区社協への寄付の呼びかけ（香典返しなど） ○校区社協主催の研修会実施と全戸回覧による参加呼びかけ ○継続的なボランティア募集と活動